



グラツときたら あなたは どうしますか

今から五十七年前の大正十二年九月一日、関東南部をマグニチュード七・九の激震がおそい、死傷者、行方不明者合せて二十四万六千五百余名もの被害者を出しました。

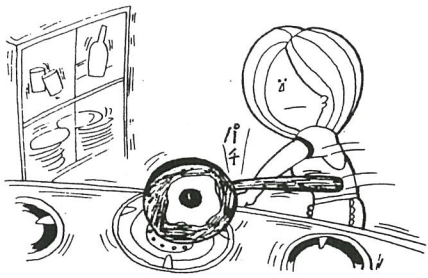
現在の光町民の約二十四倍もの人達が被害にあっているわけです。

科学の発達した現代でも、地震はいつやってくるかわかりません。そこで地震時の心得を特集してみました。

イザという時被害を最少限にとどめるためには、常日頃の心がまえが大切です。

(1) 地震が起きた時は各人があわてず適切に処置することが大切です。

何はともあれ火の始末。



使用中の火はすぐに消すこと。ガス器具はガス洩れを防ぐため、元せを締めましょう。

電気器具（特にアイロン）はコードの差し込みを抜く。また大声で「火を消せ！」と

叫ぶのも、緊急時には行動しやすくなり有効です。

(2) 丈夫な机やベッドなど地震によって倒れる心配のない家具や柱に身を寄せ、しばらく様子を見る。



(3) たんす、戸棚、本棚などは倒れるおそれがあるので近寄らない。

あわてて外に飛び出さない。



過去の地震の例をみても、建物が一瞬のうちに倒れて下敷きとなつて圧死するということは少なく、あわてて外に飛び出すと屋根がわら、窓ガラスの破片看板、ネオンサインなどが落ちてきて危険です。

(4) 二階建の場合、二階は一階よりも安全であることが多い。

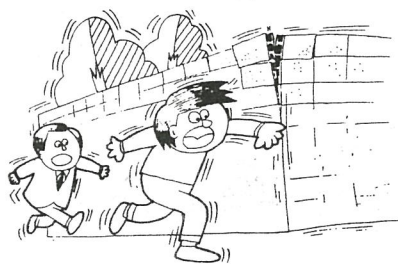
二階にいる場合はそのまましばらく様子を見ており、無理に階段から駆け降りたり、窓や屋根から飛び降りたりしない。

(5) 鉄筋コンクリート造りなどの建物では、ドアが開かなくなる場合があるので、地震が起こったならば直ちにドアを開け、避難口を確保する。

(6) 百貨店や地下街にいた時は出口、階段に殺倒するとかえって危険です。

またエレベーターは止まる恐れがあるので使わずに、責任者の指示に従い行動する。

(7) せまい路地、へいざわ、ガケの近くにいたら広い所へ移動する。(特にプロツクベいは危険です。)



(8) トランジスタラジオで正確な情報をつかむ。(とかくデマにまどわされがちです。気をつけましょう。)



備えあればうれいなし。被害を大きくするも小さくするも日ごろの心がけ次第。気をつけましょう。